

議会運営委員会行政視察報告書

- 1 視察日程 令和8年6月30日（火）から
 令和8年7月1日（水）まで

- 2 視察先及び項目
 - (1) 滋賀県彦根市 大学との連携について
 - (2) 兵庫県西脇市 ①議会機能向上のための取組について
 ②市民参画制度について

- 3 参加者 委員長 水 上 洋 志
 副委員長 河 野 麻 美
 太 田 宏 徳
 清 水 学
 水 谷 たかこ
 坂 井 えつ子
 岸 田 正 義
 片 山 かおる
 議 長 斎 藤 康 夫
 随 行 伏 見 佳 之（議会事務局長）
 屋 成 菜 月（議会事務局）

- 4 視察概要 別紙1のとおり

- 5 視察収支報告 別紙2のとおり

視 察 概 要	
【視察日程】 令和 8 年 6 月 3 0 日	【視察先】 滋賀県彦根市
【視察項目】 大学との連携について	
【視察目的】 大学との連携について先進事例を学び、今後の議会活動の参考とする。	
【取組の概要】 1 協定締結の経過について 平成 2 9 年に滋賀大学経済学部と、「地方自治および地域社会の活性化と地域における人材育成に寄与すること」を目的に「連携および協力に関する協定」を締結。さらに令和 3 年に滋賀大学にデータサイエンス学部が設置されることから、枠組みを発展的に拡大し新たな連携協定を締結している。 	
2 主な取組内容について 市議会だよりを大学生の意見を受け改善を行ったことや、議会事務局職員や広報委員会による講義、委員会とのグループワーク、議会報告会への大学生の参加、大学の講義「哲学対話」と連携した新たな形の議会報告会を実施し、議員と大学生による意見交換を行うなどである。また、市議会議員インターンシップとして学生を受入れている。	
3 協定による効果と課題 効果として、学生の参画により普段の議員活動では出会えない新たな視点を発見したこと、学生の地方自治・地方議会への興味が深まるなど地域創生を担う人材育成が期待できることとしている。 課題としては、学生の力を借りる、意見交換をするという取組にとどまっていること、大学の専門性を議会活動にいかせるような取組が必要であることとしている。	
【所感、課題等】 委員 1 彦根市議会は「議会が変わる、議会を変える」を掲げ、条例策定時の市民 3, 0 0 0 人アンケートを契機に改革を推進している。滋賀大学との連携で広報や議会報告会を刷新し、若者の視点を取り入れた対話重視の姿勢へ転換した。インターンシップによる政治参画や、学生の知見をいかした政策提言の強化も目指している。今後は市内の全大学と協力体制を築き、市民の声が届く開かれた議会づくりを更に加速させていく。	
委員 2 地方自治の推進や地域社会の活性化、人材育成を目的に滋賀大学と連携協定を締結し、「哲学対話」を取り入れた議会報告会や議員インターンシップを実施。さらに、全学へと連携を拡大し、各学部が有する専門的な知見やスキルを政策提言や地域課題の解決にいかす取組を進めている。市内に多くの大学や学術機関を有する本市においても、大学との連携を深め、知見を活用しながら政策形成力の向上を図る上で参考となる事例である。	

委員 3

滋賀大学生との連携活動は、市議会との意見交換などから、議員や議会事務局が大学に出向いて講義する、大学の授業に参加する、学生が議会にインターンシップに来るなど、非常に広範に渡っていることがわかった。特に議会報告会を学生が進行する、議員インターンシップを議会として行うこと、大学での「哲学対話」を取り入れた議会報告会の試みなどが興味深い。大学側にキーパーソンを見つけることが重要である。

委員 4

大学との連携により、大学生が進行するカタリバや大学講義と連携した哲学対話など、従来の枠に捉われない議会報告会の在り方を模索し、公民館や地域イベントに出張し、団体や市民の意見を傾聴していることは、本市の議会報告会も見習うべき視点である。また、議員インターンシップや子ども議会などで市議会や政治への関心を高めて、職員応募につながった事例などは参考になるが、市教育委員会との連携が必要である。

委員 5

3 委員会(広報、広聴、議場開放促進)に 8 名ずつ所属し、4 年間務めるという仕組みは集中的・継続的に改革が進められるメリットがあり、一考の価値がある。地域のイベントでシールアンケートをとるなど自ら出掛ける姿勢も重要だ。子ども議会を経験した児童の中には、成人して他自治体で議員を目指す方、市職員になる方がいるなど感銘を受けた。子ども議会開催に不可欠な行政の協力が得られるよう、議会も変わる必要性を痛感した。

委員 6

大学との連携では、キーマンとなる教授等の存在が重要とのことであった。地域貢献や企業等との連携に積極的な人がキーマンになり、学生のインターンシップやワークショップなどを進めることができている。議会と市民との意見交換の場で、学生がファシリテーターを務めるというアイデアは、小金井市議会でも是非取り入れたい。また、若い人の感覚をいかし、議会だよりの紙面変更が実現した、という点も参考にしたい。

委員 7

滋賀大学経済学部と「連携および協力に関する協定」を締結し、大学の教育・研究活動及び市議会活動の充実・発展の取組を推進している。議会だよりに学生の意見を反映し改善すること、事務局職員や広報委員会の講義、各委員会がグループワークを実施し、大学の講義「哲学対話」と連携した議会報告会、議員インターンシップの受入れなど多彩な取組を実施している。こうした内容を参考に、連携協定に基づく取組を具体化していきたい。

委員 8

滋賀大学との協定締結に基づき、カタリバや大学講義と連携した意見交換、議会だよりへの学生の参画等、議会を身近に感じてもらう工夫は参考になった。子ども議会や議員インターンシップを通じ、学生が議員活動や政治に関心を持ち、将来の立候補を志す声につながっていることは、地域を担う人材育成の観点からも印象的であり、大学の専門性を議会活動にいかし、お互いが学び高め合う視点を小金井市でもいかしていきたいと感じた。

視 察 概 要	
【視察日程】令和8年7月1日	【視察先】兵庫県西脇市
【視察項目】①議会機能向上のための取組について	
【視察目的】 議会機能向上のための取組について、先進事例を学び、今後の議会の参考とする。	
【取組の概要】 1 議会基本条例の検証について 議会基本条例に基づき、年1回、条例の目的が達成されているかを検証している。全議員で課題を抽出・改善策を検討することで、議会運営の継続的な改善につなげている。 2 反省会・議員間討議について 定例会終了後に反省会を行い、議事運営や質疑・質問、委員会審査等を振り返っている。また、議員間討議を通じて論点を明確にし、議論を深めることで、審査の質の向上や意見集約につなげている。 3 政策提言につなげる取組について 予算・決算審査、一般質問、事務事業評価、監査報告、住民との意見交換等を通じて課題を把握し、委員会での調査・議論を経て政策提言につなげ、議会機能の充実を図っている。	
	
【所感、課題等】 委員1 西脇市議会は委員会中心主義を徹底し、能動的な所管事務調査と議員間討議を軸に政策提言を行っている。閉会中も委員のみで熟議し、アウトプットを意識して条例制定や改正へ繋げる仕組みを構築。「政策提言フロー」を確立し、特別多数決で市長へ提言する運用も特徴である。また、質問や議論を定例会ごとに振り返る「反省会」で議員の質向上を図る姿勢は、質問中心になりがちな議会にとって極めて示唆に富む取組である。 委員2 定例会後に議会運営委員会で反省会を開催し、議長の議事運営や議員の質疑、市長答弁、委員会審査などを振り返り、課題を共有し改善につなげている。また、改善が進まない事項は議会基本条例の検証項目として取り上げ、議会改革へ反映させる仕組みを設けている。一般質問を委員会調査や政策提言へ発展させる流れを構築し、質問で終わらせることなく、政策形成機能の強化を図っている点は、本市にも参考となる事例である。 委員3 予算決算の際に、委員間で論点整理を実施し、委員間討議し、賛否が分かれる場合は2／3の賛成で市長への申し入れや決議を送付するということだが、小金井市議会では、過半数で決議を可決して送付し、議会の意思を市長に送付することはこれまでかなり頻繁に	

行っている。議選監査委員による報告会や、議会モニター制度等、小金井市議会が未実施の制度、また議会基本条例の検証について、もう少し深掘りしてお聞きしたいところだ。

委員 4

単なる意見の出し合いから「成果物」を生む議論に変えるために、市民意見や一般質問、事務事業評価などの起点から課題を仕分・還流させ、調査の出口を提言書や条例提案に結びつけている。そのために、議会基本条例の検証はもちろん毎定例会後に反省会を行い、課題を共有している。視点移動を大事にした委員間討議により合意形成を図り、議会として調査し政策提言へとつなげていることは大いに参考とすべきと考える。

委員 5

自治法第109条の2を意識している議会は多くないという認識のため、説明で触れられたことに感銘を受けた。閉会中の継続審査議決で、必要に応じて調査の柱を立てている点は参考になる。議員間討議から政策提言を行うにあたり、全会一致から特別多数議決にしたそう。目的のない議員間討議はトークショーという言葉は刺激的だが、ショーは魅せるためにやっているのもショーにさえない。建設的に議論できる議会でありたい。

委員 6

議会は議決機関であり、その前提となる熟議が重要である。議会の構成員は議員、市長以下の執行部は説明員である。執行部に対して質疑した後、議員のみで討議して論点を明確にし、合意形成を経てアウトプットすることを意識されていることが大変参考になった。事務調査権は議員個人ではなく、議会の議決によって委員会に調査権が付与されることなど、議員研修会で地方自治法をしっかりと学ばれていることも学ぶべき点である。

委員 7

議会改革のエンジンとして、議会基本条例の検証及び毎定例会ごとの反省会をあげ、絶えず検証し、改善する努力が行われていると感じた。また、質問して終わりではなく調査・政策提言の視点で一般質問から政策提言に結び付けている。本市議会も委員会での調査を踏まえた要望事項の提出や決議等により政策提言につなげる取組を行うが、議会権能をより発揮する点で学びがあった。合意形成のための議員間討議は今後研究していきたい。

委員 8

議会基本条例を毎年検証するとともに、定例会ごとに反省会を実施し、課題を継続的に改善していく仕組みは、議会改革を一過性で終わらせないための重要な取組であると感じた。また、各種委員会や一般質問などで把握した課題を委員会で調査し、議員間討議を通じて合意形成を図り、政策提言へとつなげる流れが確立されており、議会を単なる行政の監視機関ではなく、政策形成機能を担う議会として位置付けている点は大変参考になった。

視 察 概 要	
【視察日程】 令和 8 年 7 月 1 日	【視察先】 兵庫県西脇市
【視察項目】 ②市民参画制度について	
【視察目的】 市民参画制度について、先進事例を学び、今後の議会の参考とする。	
【取組の概要】 1 「議会と語ろう会」について 自治会や各種団体を対象に年間を通じて開催し、議会報告に加えてワークショップ形式で市民との意見交換を行っている。幅広い市民から直接意見を聴く機会を設け、地域の課題や市民の声を把握している。 2 市民の声を政策につなげる取組について 「議会と語ろう会」等で寄せられた意見や要望を「政策のタネ」として捉え、その背景にある課題を抽出・整理している。提起された課題を精査し、常任委員会で調査・議論を行うことで、市民の声を政策提言につなげている。 3 課題懇談会・高校生議会について 市内で活動する団体等との課題懇談会や、市内 3 高校を対象とした高校生議会を実施している。多様な立場・世代との対話を通じて、市政や地域の課題を共有するとともに、若い世代の議会・政治への関心を高める機会としている。	
【所感、課題等】 委員 1 西脇市議会は年間約 30 回の「語ろう会」で市民の声を組織的な政策プロセスへ乗せる仕組みを確立している。少数の声を班長会議で吸い上げ、委員会調査を経て提言する一連の流れは非常に示唆的である。こうした委員会中心主義と政策提言の確立こそ、私たち小金井市議会が取り組むべき本質的な改革である。個人の活動に留まっていた声を議会全体の提言へと発展させ、市民の想いを市政に反映させることの必要性を強く感じた。 委員 2 自治会、消防団、PTA、女性会や高校など幅広い団体を対象に、年間約 30 回の議会報告会を開催している。要望や苦情についても、その背景にある地域課題を丁寧に分析し、課題懇談会で協議した上で政策提言につなげる仕組みを構築している。市民の声を単なる意見聴取に終わらせず、議会として課題を共有し、継続的な調査・検討を経て政策形成へ反映させる仕組みは、本市においても市民参加の充実を図る上で参考となる事例である。 委員 3 「議員と語ろう会」の目的や回数及び方法について、また、市民団体との意見交換など	



は大変参考になったが、基本的に広報・広聴協議会の所掌と整理したことについての質疑が多かったことが気になった。広報・広聴に関する議会活動について、先進事例を研究することは重要であり、議会活性化につながる。議会運営委員会と広報・広聴協議会は、行政視察の順番を一年ごとに交代してはどうかと考える。

委員 4

「見える」から「伝わる・カタチにする」議会へ変わるために、広報広聴特別委員会に編成権をおき、年間約30回もの議会と語ろう会、テーマ別に団体と協議する課題懇談会や高校生議会など様々なチャンネルを設け、市民の声を政策の種として捉えて常任委員会の所管事務として調査し、市長提言へとつなげる政策フローをしっかりと作ることが重要である。目的なき議員間討議は単なるトークショーであるという言葉に感銘を受けた。

委員 5

議員と語ろう会やテーマ別の課題懇談会など数多く開催しており、議会として市民参加の機会を多く設けている。“ご意見から課題を抽出する”議員の聴く力を高めるためには経験を積むのが一番だ。教室型にすると批判的な意見が出やすいためワークショップ形式をとっているそうだ。議会と語ろう会から政策提言へつなげる仕組みもある。小金井市議会は、個や会派としての活動が強く、委員会や議会としての活動が弱いので改善したい。

委員 6

議会報モニターの声をいかし、わかりやすい表現に変えるなど、形になっていることは参画する市民にも達成感がある。ゆくゆくは議会モニターに移行することを視野に、アンケート項目を追加していくなど、長期的な視点で向上を考えている点が素晴らしい。市民と語ろう会や高校生議会の結果を政策に結び付ける仕組みや、ファシリテーション能力向上のため、研修を4年に1度は必ず行っている点など、本市議会は見習うべきである。

委員 7

「議会と語ろう会」を班分けし、自治会、各種団体と実施している。「会」で出た声を仕分・精査し、常任委員会で所管事務として調査し、政策提言に結び付ける努力を行っている。市民の声を政策のタネとして受け止め提言につなげる努力は学ぶ点がある。また課題懇談会を行う等市民の声を様々な視点から聴取する点は参考にしたい。議会だよりモニター制度等を含め、広聴・広報協議会で今後の検討・研究課題として取組まれると思う。

委員 8

議会と語ろう会や課題懇談会、高校生議会、議会だよりモニター等、多様な市民参加の機会を設け、幅広い世代や団体との対話を継続している点が印象的であった。様々なチャンネルを通じて市民の声を「政策のタネ」として捉え、委員会で調査・検討し政策提言へとつなげる一連の流れが構築されている点は大変参考になった。西脇市の市民に開かれた議会を目指す姿勢から、本市議会の今後を考える上で多くの示唆を得ることができた。

(別紙2)

収 支 報 告

1 予 算 535,330円

〈内 訳〉 委員旅費 @48,530円 × 9人 = 436,770円

1人当たり旅費 交通費 34,130円

宿泊費 8,800円

日 当 5,600円

職員旅費 @46,530円 × 2人 = 93,060円

1人当たり旅費 交通費 34,130円

宿泊費 8,800円

日 当 3,600円

視察負担金 @500円 × 11人 = 5,500円

2 執 行 額 534,340円

〈内 訳〉 交通費 374,440円

宿泊費 96,800円

日 当 57,600円

視察負担金 5,500円

3 差 引 残 990円

※公用車での送迎により、一駅分電車を使用しなかったため